

# TCVV 白書

連載記事：声優システム論 17

The TCVV Whitepaper 2023 NO. 24



# 声優は Visual に出るな！宣言 Ver1.11

声優は Visual に出るな会議 決議第 00000 号

声優は映画俳優・舞台俳優に比べ声だけで勝負をするという過酷な生業である。  
映画・舞台俳優は身振り手振りが付加されるので視覚に訴えることが効く。  
が、声優はそうは行かない。だからこそ高度な演技力が必要とされるのではないだろうか。  
現在、第四次声優ブームと言われているそうだが、何か違和感を感じずにはいられない。  
最近の「声優」と呼ばれる人々は Visual、その他のメディアに頼りすぎ・出過ぎではないだろうか？  
今やマーケティングでメディアを十分に活用すれば、そこら辺のお姉ちゃんでさえも CD をあつという間に売ってしまう。この状況を「沈黙のミリオンセラー」\*1とは良く言ったものである。  
「声優」自体が今やメディア戦略によって商品になってしまったと思う。  
この戦略は聴衆を気がつかない間に購買者に変えてしまう巧みなシステムだと考える。  
しかし、このシステムは本来の価値。つまり「声のプロフェッショナル」としての声優を正当に評価していないものであると言える。

舞台俳優の中には決して Visual に耐えられる人ばかりではない。  
が、そのような人が舞台に立てるのは、人を引き付ける演技力を持っているためであると考ええる。  
一方、声優の質は低下している。これは最近のアニメーションは高度な演技力を必要としないものが多くなっているからといえよう。そうなれば声優の質が低下するのは至極当然のことである。\*2  
従って、高度な演技を必要とする作品では声優の能力の限界が露呈してしまう。  
例えば、劇場版新世紀エヴァンゲリオン最後の最後はアスカのほんの一言で終わる。\*3  
しかし、この台詞は始めに用意してあったものとは違うものであったようだ。  
本来は「あんたばか？」であったようだった。が、声優の力量不足のため、結局「気持ち悪い。」へと変更を余儀なくされた。  
完全に声優が役に負けてしまっていたのである。  
結果、作品は中途半端に仕上がってしまい損害を被ったのは我々聴衆者である。

声優が新境地を求めるのもいい。しかし、声優も役者であるのだからまず足場を固めてから進出するのが筋と考える。  
我々は、健全な日本アニメ・マンガの質を守るため、ここに「声優は Visual に出るな！」を宣言する。

---

\*1 誰もが知っている訳でもないのに 100 万枚以上売ったレコード・CD のこと。一昔前は 100 万枚といたら大部分の人がその曲を知っていた。

\*2 劇場版 Evangelion のパンフレット（春、夏ともに）にて清川元夢氏はプロ意識なき声優への批判とも解釈できる発言をしている。これは非常に勇気ある発言と言える。（普通はこういう事は映画のパンフでは言わないであろう。）

\*3 実は Evangelion はヲタク（庵野氏）によるヲタク批判であったことはあまり報じられていない。ヲタクの皆様はそのメッセージを受け取れなかったとのこと。（レイとシンジが列車に乗っていて会話をするあのシーンが批判部分とされている）

## 目次

|                                    |    |
|------------------------------------|----|
| 巻頭言                                | 4  |
| 1 第 23 回 TCVV アニメタレント短期観測調査        | 5  |
| 1.1 TCVV 短観概要 . . . . .            | 5  |
| 1.2 調査期間 . . . . .                 | 5  |
| 1.3 集計 . . . . .                   | 6  |
| 1.4 傾向分析 . . . . .                 | 7  |
| 1.5 際立つ状況 . . . . .                | 7  |
| 1.6 気になる状況 . . . . .               | 8  |
| 2 ナナニジ Watch Vol.2                 | 9  |
| 3 声優システム論 17-『アイドル声優の何が悪いのか?』を読んで- | 10 |
| 4 私と同人誌と I 君                       | 12 |
| 5 Chairman's free talk -議長放談-      | 14 |
| 編集後記                               | 15 |

## 巻頭言

声優は Visual に出るな!会議 議長 萱沼真一

---

### 役者の健康管理が急務である

---

ここ数年、声優の体調不調者が増えていると感じている。ネットの普及で可視化されただけかも知れないと思っていたが事務所側の報告でも増えているとのこと。しかも原因はアイドル化で負担が増加しているとのことだ。

ひと昔と違い、声優の仕事は多岐に渡る。演技だけしていれば良い時代は終わってしまい、時にはライブで歌を唄ったり、時にはグラビアだったりと多種多彩なことを行わなければならなくなった。

我々、受け手側の要望を受けての仕事もあれば、提供側の要求によるものもあるだろう。こと最近はバンド活動における作品も多く、声優たりとて楽器を演奏しなければならないこともある。バンドまで行かないにせよライブなどではダンスパフォーマンスも必要になってきている。さらにさらに我々ヲタの相手もしなければならない。もう負荷は増すばかりである。

声優は役者なので芸の肥やしになるものであれば何でもするのがスジである。が、仕方なしにやっていないだろうか？

適応障害により健康を害している声優が増えているというが、どうみてもいま述べたような過負荷が原因だろう。

人気声優になればなるほど負荷が高まると思う。それを考えると上位で活躍している声優たちはストレス耐性が高い人たちが残ったと考えるのが妥当だろう。これまで幾多の声優が出て来ては消えて行ったが、最近の消え方は異常である。正常な淘汰は歓迎であるが、いまの淘汰は果たして我々が臨んだものとは思えず非常に複雑な思いである。

技量の無い人間が淘汰されるのは仕方ないが、そうでは無い理由で淘汰されるのは忍びない。今こそ事務所のマネジメント力が試されているものと思う。

また結論めいた巻頭言になったしまったが本文をご覧頂きたい。

---

The council of 'Voice actors should not appear in Visual'

## 1 第 23 回 TCVV アニメタレント短期観測調査

---

TCVV 情報管理部 調査課 短観担当

### 1.1 TCVV 短観概要

経済指標を示す「日銀短観（日本銀行短期経済観測調査）」のようにある期間に区切りアニメタレントの出演数を調査することにより現状の動向を分析する。

データは「しょぼいカレンダー<sup>\*4</sup>」から TCVV の算出基準<sup>\*5</sup>により機械的に抽出したものである。

集計方法は新規出演数を四半期毎に集計し合算した後、4 で除することで四半期当たりの新規出演数の平均値を算出する。この値を「短期的な活性度（単純活性度）」と定義する。

ただし、人間は忘却をする性質があるので『単純活性度』だけでは感覚に合致しないと考える。最近の出演した方がより印象が深い。そこで人間の感覚を取り入れるため過去を割り引いて考えた『感覚活性度』も同時に算出する。

具体的な算出方法は 4Q 前は出演数に 0.25 を、同様に 3Q 前は 0.5、2Q 前は 0.75 を乗ずることで重み付けし人間の感覚により近い活性度を算出する。

活性度が 1.00 以上ということはクォータ毎に平均して新規 1 本出ていることになりコンスタントに新規出演していると言える。言い換えれば『常に新しい状態』である。

順位に関しては感覚活性度を優先とし、感覚活性度が同値の場合は単純活性度で比較した。また調査結果については誌面を圧迫するため女性声優のみの調査とし上位 30 名までの掲載とした。

(標本数 女性 288 名)

### 1.2 調査期間

西暦 2023 年 1 月～2023 年 12 月

本調査は十分な調査をしていますが完全性を保証するものではありません。  
また今後の動向については現時点でのデータからの予想です。

---

<sup>\*4</sup> <http://cal.syoboi.jp/>

<sup>\*5</sup> 無料地上波放送の TVA レギュラ出演のみで単発出演は除く

### 1.3 集計

2023 年 TCVV アニメタレント短期観測調査

| 順位 | 氏名       | 2023/4Q | 2023/3Q | 2023/2Q | 2023/1Q | 感覚活性度 | 単純活性度 |
|----|----------|---------|---------|---------|---------|-------|-------|
| 1  | 日笠 陽子    | 11      | 8       | 4       | 5       | 5.06  | 7.00  |
| 2  | 上田 麗奈    | 10      | 6       | 6       | 1       | 4.44  | 5.75  |
| 3  | 瀬戸 麻沙美   | 10      | 3       | 4       | 2       | 3.44  | 4.50  |
| 4  | 種 敦美     | 8       | 1       | 7       | 4       | 3.31  | 5.00  |
| 5  | 内田 真礼    | 5       | 4       | 5       | 3       | 2.81  | 4.25  |
| 6  | 石見 舞菜香   | 6       | 3       | 4       | 3       | 2.75  | 4.00  |
| 6  | 東山 奈央    | 5       | 6       | 2       | 2       | 2.75  | 3.75  |
| 8  | 日高 里菜    | 8       | 1       | 2       | 2       | 2.56  | 3.25  |
| 9  | 加隈 亜衣    | 4       | 3       | 4       | 6       | 2.44  | 4.25  |
| 10 | ファイルーズあい | 5       | 3       | 3       | 4       | 2.44  | 3.75  |
| 11 | 佐倉 綾音    | 6       | 3       | 2       | 2       | 2.44  | 3.25  |
| 12 | 上坂 すみれ   | 3       | 4       | 6       | 2       | 2.38  | 3.75  |
| 13 | 早見 沙織    | 6       | 3       | 1       | 3       | 2.38  | 3.25  |
| 14 | 高橋 李依    | 2       | 5       | 5       | 4       | 2.31  | 4.00  |
| 15 | 悠木 碧     | 4       | 3       | 4       | 4       | 2.31  | 3.75  |
| 16 | 和氣 あず未   | 6       | 0       | 5       | 3       | 2.31  | 3.50  |
| 17 | 水瀬 いのり   | 4       | 3       | 4       | 3       | 2.25  | 3.50  |
| 18 | 大西 沙織    | 4       | 4       | 3       | 2       | 2.25  | 3.25  |
| 19 | M・A・O    | 4       | 5       | 2       | 0       | 2.19  | 2.75  |
| 20 | 長谷川育美    | 6       | 1       | 2       | 3       | 2.13  | 3.00  |
| 21 | 楠木ともり    | 5       | 2       | 1       | 5       | 2.06  | 3.25  |
| 21 | 小市真琴     | 3       | 4       | 3       | 3       | 2.06  | 3.25  |
| 23 | 鈴代紗弓     | 5       | 1       | 3       | 3       | 2.00  | 3.00  |
| 24 | 市ノ瀬加那    | 6       | 0       | 3       | 2       | 2.00  | 2.75  |
| 25 | 小倉唯      | 4       | 2       | 4       | 1       | 1.94  | 2.75  |
| 26 | 小清水亜美    | 3       | 3       | 4       | 1       | 1.88  | 2.75  |
| 26 | 田村睦心     | 4       | 2       | 3       | 2       | 1.88  | 2.75  |
| 28 | 石川由依     | 5       | 2       | 1       | 2       | 1.88  | 2.50  |
| 28 | 釘宮理恵     | 4       | 3       | 2       | 1       | 1.88  | 2.50  |
| 30 | 花澤香菜     | 3       | 2       | 3       | 4       | 1.75  | 3.00  |

## 1.4 傾向分析

今回の調査は 2023 年の総決算といえる。前回集計ミスがあり一部で前後している箇所があった。大変申し訳ありません。しかし、それによる変動は 10 位内では無いことを確認している。

前回と比較して上位 10 位内は若干の入れ替えはあるものの前回とあまり変化は無い。前回調査から 1 クールしか経過していないためと考えるがそのような中で入れ替えがあったのは特筆に値するので後ほど個々に述べる。

1 位は前回と同じく日笠陽子でありダントツである。2 位も同じく上田麗奈であり、こちらも 3 位以下を大きく離している。いずれにせよ、中堅勢が上位を独占する結果であり、依然として分厚い壁が存在することは間違いない。

## 1.5 際立つ状況

### 1.5.1 日笠陽子, 上田麗奈

日笠陽子、3 回連続で 1 位。もはや何なのかというレベルである。

この位置をいつまで維持するのか楽しみになって来た。

2 位は前回同様に上田麗奈。3 位以下を圧倒的な大差で離している。特徴的な声質が魅力になって来ている感がある。

### 1.5.2 瀬戸麻沙美

前回から大幅順位アップ。10 月期に大幅に出演数が大幅増加したため上位に来た。大幅に増加すると大きなリバウンドが来るので次回が気になるところだ。

### 1.5.3 種崎敦美

ここ数年徐々に順位を上げ遂に 4 位となった。特に 10 月期に主演が 3 本もあり極めつつある。この位置をどれだけのあいだ維持するのか今後は気になる。

### 1.5.4 石見舞菜香

去年 (2022 年) と同じレベルの順位回復した。いよいよ中堅の地位を固めつつあるが声が単色なので今後は気になる。

## 1.6 気になる状況

### 1.6.1 ファイルーズあい、日高里菜

10 月学期に出演が大幅に増えたことで前回から大幅アップ。

### 1.6.2 高橋李依

3 位から 14 位と大幅下落。10 月期の出演が少なかったのが低下の原因だが、前回、予測した通り反動が来ているようだ。

### 1.6.3 長谷川育美

前回調査 42 位から大躍進。修正ミスを疑ったが、そうではない。次クール以降の動向に注目したい。

### 1.6.4 その他

20 位以降には、楠木ともり、小市真琴、鈴代紗弓、市ノ瀬加那が控えている。ここれらが次世代の中堅となる人材になるかと考える。



## 2 ナナニジ Watch Vol.2

調査部

### はじめに

謎の「デジタル声優アイドル」であるナナブンノニジュウニ（以下、ナナニジ）。  
〇〇48や〇〇坂などの単純なアイドルであれば放っておくところだが声優と名乗っている以上その動向を掴んでおきたい。

### 今年の動き

前回からのアップデート。初期メンバーだった宮瀬玲奈と白沢かなえが、5月、7月にそれぞれ脱退（卒業）した。メンバー構成は暫くこのまま行くのかと思っていた矢先。6月に河瀬詩がストーカー被害に遭い活動中止し、現在も中止が続いている。さらに二期メンバーである雨夜音が8月に学業および家庭事情で脱退（活動終了）した。

ここで終わらないのがナナニジ。体調不良で休んでいた清井美那が11月末で脱退（活動終了）した。

ここまで不安定なグループも珍しい。

2年前に二期メンバーを加えて14人でスタートしたナナニジではあるが現時点では実質9人となっている。

### なぜここまで駄目なのか

方向性が見えないからの一言に尽きる。デジタル声優アイドルと銘打っているが、その実は『ただのアイドル活動』となっているだけ。大本命と言われたアニメは不発に終わってしまった。

アニメ2期を匂わせていたが、その後は普通にライブをしてバラエティー番組の『22/7 計算中』に出ているだけで声優らしいことはやっていない。まあ、あの状態で声優と名乗られても困るが。

既にコンセプトが破綻している。もはや『22/7 迷走中』である。

ナナニジは基本的にメンバーが少ない、良い言い方をすれば少数精鋭であるが悪い言い方をすれば個々に負荷がかかる構造である。雨夜音や清井美那の脱退も過負荷が遠因ではないかと思う。実質9人での活動だと今後はさらに負荷も大きくなるので悪循環が予想される。

それにしても西条和は強い。一番打たれ弱い感じだったのにこのような不安定な中で1度も活動中止していない。それはそれで凄いと思う。

### この先どうなる

アニメが始まる少し前、メンバーは一時期Vtuberとして活動していたが、それも鳴かず飛ばずで放置されている状態。何もかもが中途半端。唯一声優らしい活動をしている天城サリーでさえ、今年は前半には作品に出演していたものの後半は出ていない。しかも出ていた作品はいずれもソニー製であったので完全に事務所繋がりである。このままではアニメ二期は実現せず解散というのがうっすらと見えてきた感じだ。

### 3 声優システム論 17- 『アイドル声優の何が悪いのか？』を読んで-

TCVV 議長

#### 声優システム論とは

現代声優はアニメや洋画に声を当てるだけの存在ではなく社会や経済にも影響を与える存在になり、その動きは一昔前の古典的な声優観では説明出来無い。

そこで現代声優の振舞いを複雑系として捉えることを考え、この系を『声優システム』と名付けた。<sup>\*6</sup>

本論は『声優システム』を様々な角度から考察するものである。

#### 1. 声優マネジメントを扱った初の書籍について

今年 11 月、スタイルキューブ社長が声優マネジメントに関する書籍『アイドル声優の何が悪いのか？タレントとしての声優マネジメント』を上梓した。タイトルからして我等の思想から真っ向から対立する、開き直った挑戦的なタイトルである。

我々からすれば**何が悪いって下手だからだよ**と言いたいが。

これまで各種メディアは声優自体をクローズアップしてきたがマネジメント側を扱ったものは初めてではないかと思う。ダイジェストが文春オンライン<sup>\*7</sup>に上っているので一読してみてもと思う。

声優業界は他の芸能界と違った独特の雇用システムやランク制起因する問題もあり事務所側に入る金銭は僅かだという。それを補うためアイドル声優を始めとした多角化は仕方無いのだという論調であった。

当方は予防線を張りながら読み進めていたが書き手のマジックなのか今のアイドル声優ビジネスが一見して合理的に見えてしまった。が、何か違和感を覚えるものがあった。

#### 2. 違和感

この違和感は何なのか？本誌の TCVV 短観を見て頂ければ分かるがトップにいる人たちは、ほぼアイドル活動はしていない。特に最近毎回トップである日笠陽子に至ってはアイドルではないだろう。寧ろ技術や人望が厚いことで採用されている。

それに初期の頃のスタイルキューブは声優(役者)としてではなく最初からアイドルとしていたではないか。そもそもアイドル声優を是認してしまうことは顕著な副作用として賞味期限ができてしまうことだ。

本来、長く続けることができるハズの声優業が非常に短いものになってしまう。

また、いかに声優をケアするのが重要ということが述べられていたがスタイルキューブと言えば所属していた松永真穂が退所する時、事務所側の問題を暴露し、円満退所とは言えない騒動があった。あそこまで明らかに会社代表を批判したものは聞いたことがない。とてもケアしているとは思えない。

その騒動を反省点として反面教師的にケアの大事さを述べているのかも知れないが...

<sup>\*6</sup> システムたる典型的な例は声優のためにアニメが作られるようになったこと。主従で言えば、従だった声優が主になったという点から見ても『システム』要件を満たしている。

<sup>\*7</sup> <https://bunshun.jp/articles/-/67008>

あとレッスンは自主性に任せるといふ。任せるのはいいけど棒読みは勘弁して欲しい。

### 3. 棒読みはとても是認できない

アイドル声優全員が棒声優とは言わない。寧ろ最近では棒の方が稀になっていると思う。が、「アイドル声優の何が悪い」とか言われてしまうと行間に棒声優でも許して欲しいとの免罪符がそこそこに見えかくれしていると感じた。

本誌読者であれば棒読みだけは是認できないことはご存知だと思うがあらためて言うと、棒読みは作品世界に没頭できなくなり、作品世界を破壊する。

前述の松永真穂が初代ラブライブに出演した時<sup>\*8</sup>、散々と『酷い棒だ。』と非難されたことは読者も記憶にあるかと思う。作品を壊されたと思えば、そうなるのも当然である。十分な演技指導が出来ていれば、あそこまで叩かれなかったと考える。

声優事務所と謳うに十分なサポートが出来ていたのか疑問を思ってしまった。

### 4. ナナニジは根幹が同じに見える

スタイルキューブの件を考えていたらナナブンニジュウニ (以下、ナナニジ) は初期のスタイルキューブと被るものがある。デジタル声優アイドルと銘は打っているものの実質は通常のアイドルグループであり、声優アイドルとして売り出している。そして声優としての実力はご存知の通りあり、アニメで盛大な棒読みを披露して観ている人を驚かせた。ソニーパワーで潤沢とも言える資金があるナナニジでさえ棒読みは防げなかった。歴史は繰り返されてしまうのか。

### 5. どうすればいいのか

著書で書かれている通り今の声優業界は古いシステムで構築されており、現在のような多種多様さに対応していないのは間違いない。しかし、構造をいまスグに変えることは困難だと当方も思うし、事務所だけではどうにもならないと考えている。

随分と前から声優のアイドル性は当たり前のようになっているが、これが全ての問題だと思う。

だがアイドル性があって演技も素晴らしい役者なんて、そうそういない。

声優志望者が増えていてイスの奪い合いとまで言われている昨今にヘタクソ声優が出てしまうことは恐らくはアイドル性を優先して、演技については多少の疎さには目を瞑っているのかと思う。であれば我々の方が多くを望み過ぎないことが最も近道ではないだろうか？

声優に過度なアイドル性を求めないことで役者に負担をかけなくすることが必要ではないかと考える。

### 6. 今回のまとめ

- 現代の声優マネジメント裏側は結構エグい。
- 歴史は繰替えされる。
- 声優に過度なアイドル性を求めないこと。

---

<sup>\*8</sup> A-RISE の統堂英玲奈役

## 4 私と同人誌とI君

情報管理部調査課主任 北沢紘一

私事で恐縮だが11月初旬、工高<sup>\*9</sup>時代の同級生で唯一連絡を取り合っていたI君がなんの前触れも無くこの世を去った。

彼とは入学時に席が近かった事もあるがお互い遠距離通学、同一中学からは1人だけという共通点もあったが、なにより漫画・アニメ好きという事で早々に仲良くなった。私が先に入部していた部活動<sup>\*10</sup>へも誘って見たら入部してくれた。そして彼と一緒に活動した事が私の人生をある意味変えてしまった。それは何か?、『同人誌』という存在を彼が教えてくれたのである。

ちなみに彼のジャンルはどちらかといえば女性向に部類されるであろう「ショタ系」だった。ここまで読めばご理解いただけと思うが私の同人誌初体験はいわゆる「ショタ本」だったのである。

同人誌という世界もショタというジャンルも初めて知る世界、次はこの様な「えっちな本」を所持したくなるのが健全な男子工高生というものだろう。

「だったら〇〇書店へ行けばいいよ」。田舎の地方都市で男性向二次創作同人誌を扱っている本屋へ連れて行ってくれた。当時はセーラームーン全盛期。私も亜美ちゃんにハマっていたので丁度あった亜美ちゃん本を買ったのを今でも覚えている。他にどの様に入手する方法があるのか、当時は即売会以外で同人誌を入手する為には個人売買で「無記名小為替と宛名シール」という時代。この謎の呪文の様な言葉を教えてくれたのも彼である。

この頃入手した薄い本、実は大学卒業時の引っ越しのドサクサで一部を紛失してしまった。中には後に男性向け商業誌でも活躍された方の物も数多く含まれており、実に残念な事をしたと後悔しているが赤松健氏による「KEY THE METAL IDOL」のコピー本が残っているのは唯一の救いだろう。（笑）。

話は若干逸れるが、今現在放送されている「16bit センセーション」<sup>\*11</sup>は「おっさんホイホイ」と言われても反論出来ないほど我々世代の古傷をえぐるような作品である。

作中に出てきた「同級生（エルフ）」はもちろん、「あゆみちゃん物語（アリスソフト）」に「愛姉妹（シルキーズ）」、「野々村病院の人々（同）」や「悦楽の学園（シーズウェア）」等々、上げたらキリが無い程の作品にお世話(?)になった。また18禁以外だとPCエンジン版の初代「ときめきメモリアル」がいわゆるコンシューマ向け美少女ゲームとして登場、あとはTAKERU<sup>\*12</sup>で頒布していた「宝魔ハンターライム」なんてのもあった。ちなみに私が初めて実行したゑログは彼が教えてくれたのではなく、これまた今でも付き合いのある部活の先輩Kさんからいただいた（謎）天津堂の「マーシャルエイジ」という作品だった。5インチフロッピーディスク3枚、最大でも3.6MByteで収っていたであろう実行ファイル容量と今では考えられない容量である。参考までに同級生はフロッピーディスク9枚構成だったと記憶している。HDDなんてものは高くて買えずフロッピーディスクベースで実行していた訳だが、肝心のシーンで「Disk〇へ入れ替えてください」と表示が

<sup>\*9</sup> 工業高校

<sup>\*10</sup> 漫研とかそういう類では無かったが文化系

<sup>\*11</sup> <https://16bitsensation-al.com/>

<sup>\*12</sup> <https://global.brother/ja/digest/history/takeru>

出て萎えたものだ。その後、バイト代を貯めて中古の PC-386NoteAR2 を購入、後に 10 万円以上もする内蔵 120MB の HDD を搭載して休み時間にプレイしていたが今思い返すとモノクロ 16 諧調でゑろゲをしていたんだからただの馬鹿である。他にも廊下で他学科の友人から呼び止められ「この前出た〇〇買ったけど持ってく?」とパッケージむき出しのままで手渡されたりと実質的男子高校である工業高校というのはそういう所だ。尚、借りたパッケージはどうしたか?そんな野暮な事は聞かないで欲しい (笑)

PC-9801 シリーズとゑろゲを取り上げた 16bit センセーション、彼が亡くなった週に放送された第 3 話はそんな時期とダダ被りしてしまい色々な事を思い出し途中で観ていられなくなった。

工高卒業後、彼は東京の某声優養成専門学校へ進学。私も関東圏の大学へ進学したので彼のバイト先の飲食店へよく冷やかしに行った。10 月頃だっただろうか何時ものように彼のバイト先へ冷やかしに行ってみると彼が居ない。まァシフトじゃないんだろうと思って帰宅した数日後、彼から「学校辞めてとりあえず実家に帰った」という内容の電話がかかってきた。年末に帰省した際に詳しい話を聞いたところ、「誰が成功して、誰が成功しないか判った。オレは後者だからこれ以上は無駄だと思って辞めた」

何せ 30 年近く前の事なので記憶が定かではないのだが要約するとこうだったように思う。今考えてみると実に潔い彼らしい決断だった。

昨今、声優の男女比率は女性声優が約 6 割に対して男性声優は約 4 割と言われている。確かに声優として成功するのは難しいのかもしれないが、女性声優よりも母数が少ない男性声優ならばワンチャンあったんじゃない?と未だに思う事もある。この事は某インターネットラジオ番組でパーソナリティの女性声優が触れていて「女性声優は男性声優と違って絶対的な母数が多いから私の様な女性声優は少しでも名前を売らなければ生き残れない。現に〇〇くん(男性声優)はどの収録現場でも必ず見かける」という様な事を話していた事を覚えている。

はたしてこの事は事実なのか?実際に 2023 年秋クールのアニメから 6 本以上出演している人を抽出<sup>\*13</sup>してみたところ、男性声優が 24 人に対して女性声優は半数の 12 人だった。逆に 1 本だけに出演している割合は男性 114 人に対して女性 141 人。1 人あたりの出演本数の平均も女性 1.9 本に対して男性が 2.4 本、この事から解る様に男性声優の母数が少ないが故にオファーする先が限られていると言えるだろう。また、平均年齢についても女性が 30 歳に対し男性が 40 歳。私と同世代の男性声優達が中心となっているのである。

そんな訳で、今回はコラム的な内容として I 君との思い出から当サークルではあまり取り上げない男性声優について簡単に書かせていただいた。

この C103 が開催される頃は四十九日を数日過ぎてしまっているが彼の事だ多少オーバーステイしてこの会場に立ち寄った後、薄い本を大量に抱えて三途の川を渡る事だろう。

次回 C104 にもお盆にはちょっと早いけどどうせ顔を出すんだろう?その時はあの世土産の差し入れ待っているぞ!!!

---

<sup>\*13</sup> <https://www.animatetimes.com/news/details.php?id=1694596805>

## 5 Chairman's free talk -議長放談-

TCVV 議長

### 1. キングレコード

ここ最近キングレコードからヒット作が出ていない。当たる作品はソニー製か TOHO 製ばかり。当たる原作を嗅ぎ分ける嗅覚が鈍っているのではないかな？

### 2. 石川由依

石川由依、今年は主役級が多かった。演技に幅が出てきたて随分と上手くなったと思う。初めて出演した『ヒロイック・エイジ』の頃は凄い棒で「何じゃこりゃ」と思った。その後、暫くは出演が無かったけど進撃の巨人でクローズアップされた。その後はご存知の通り。『ヒロイック・エイジ』の時の衝撃が酷かったんで、それで声優はお仕舞いだと思っていたので正直驚いている。継続は力だと思うと同時に継続することが出来たのが凄いと思っている。

### 3. ミュージックレイン、ヤヴァくね？

ミュージックレインの勢いが無い。一時期は飛ぶ鳥を落とす勢いだった戸松遥、雨宮天ですら一時の勢いが無い。1 期生については全員結婚した関係で仕事を減らしているという見方もできるが 2 期生は少なすぎる。さらに 3 期生についてみれば絶望的くらい出ていない。以前のミューレであれば、それこそウザいくらいに出ていたのに。戦略が全く見えない。1 期生の成功が嘘のようだ。

### 4.TCVV 短観の予測

長年調査している TCVV 短観。ChatGPT にデータを喰わせてみたら予測とか出来るのかなと少しだけ考えた。しかしデータだけだと多分無理そうなので何らかの指示を与えないと駄目かもね。久々に技術部の出番かな。

## 編集後記

---

本誌をご高覧頂きありがとうございます。

今回は特段の柱となる企画を設けることなく通常の内容でお送りしました。そのため、やや退屈な内容だったかも知れません。(本業が多忙で執筆する時間が無かったというのは秘密です)

さて、本誌で毎回連載している TCVV 短観ですがネット界限でも同様な集計がされているようです。

ただ当会議で集計している結果とは、かなり乖離していました。これは集計方法の違いだと思います。当会議の集計方法に問題が無いとは思っておらず以前から改善したいと考えています。しかしながら、未だ良い方式が見付からず 10 年以上前から同じ方法を取っています。おおよその動向を把握するには、そんなに外れていないかと思っていますし、上位を見る限り肌感覚でも納得が行くものかと思っています。

その上位群ですが相変わらず固定された感じがあります。非常に分厚い壁がありますが、その壁に近付いて行く人達もいて今後が楽しみでもあります。

声優システム論では今まで取り上げなかった事務所のマネジメントについて述べました。殆どスタイルキューブ社長が執筆した本に対する意見ですが...

以前本誌でも取り上げた岩田光男氏の著書のように声優本人が声優業界について語るものが従来は多かったと思います。声優のマネジメントについて関係者が声優事務所の内情を深く公に語られたのは初めてではないかと思います。ただ、内容については違和感があるなあとはいりましたので、その点について受け側から述べました。ほぼスタイルキューブ批判みたいな内容になってしまいました...

最近、文春オンラインは結構な割合で声優に関する記事が出ています。ベテランどころの声優のインタビューなどを中心に記事が配信されています。その中でも三石琴乃氏がとても良いことを述べていました。

**『最良などでチャンスをもらっても、やがて必ず淘汰されていくものです。最後にはしっかりと実力を身につけてきた人だけが残ります。』**

淘汰、実力。我々が二十数年間言ってきたことですがベテランが言うとう重みが違います。実力があっても健康を害したり、本人に関係のない外部要因で続けられなかった人も中にはいるでしょうが、実力の無い人は確実に淘汰されています。TCVV 短観を見ても上位常連の人は地道に実力を身につけてきた人だと思います。

しかも、昨今は淘汰圧が強くなっているので短期間で淘汰されてしまいます。その状態で残るとするのは本当に実力者だと思います。

前回、予告した通り本誌は通巻 30 号で定期発刊は終了します。その後は折りを見て発刊しようと思います。迷惑サークルと言われつつも 20 数年間やってきたので、それなりの蓄積はありますので 30 号は総決算的な企画を今から考えています。

それではまた次回、誌面でお会いしましょう。

2023 年 12 月 30 日 TCVV 議長 萱沼真一

---

TCVV 白書 第 24 号 通巻 28 号

発行 「声優は Visual に出るな!会議」 情報管理部

組版 L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X2e (Cloud L<sup>A</sup>T<sub>E</sub>X)

発行日

2023 年 12 月 30 日 (初版)

連絡先

「声優は Visual に出るな!会議」

代表者 萱沼真一

URI <https://www.tcvv.org/>

E-mail [info@tcvv.org](mailto:info@tcvv.org)

Twitter <https://twitter.com/tcvv>

Copyright (C) 2023 The council of ‘Voice actors should not appear in Visual’

